

釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

おん ね ない

# 月刊 根内 通信

2023年11月号 No.326

11月15日(水)発行



## 君は、なにマシコ・・・？

見慣れない鳥が釧路湿原にやってきました。アトリの仲間で、オスと思われる個体は見事な紅色です。

「これは…なにマシコだ…？」

と思いつつ、図鑑の記憶を呼び起こし、

「…これが、イスカか！」とようやく閃いたのでした。その記憶のとおり、嘴が交差しています。松ぼっくりを食べるイメージでしたが、今年是这样してハンノキの実をついばみに来てくれました。

☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた自然（10/15～11/14） ☆☆☆



【ドクゼリ】  
セリ科 毒芹  
暑させいか、今年は長期間咲いたり、時期がずれて咲くものが見られました。本種もその一つです。



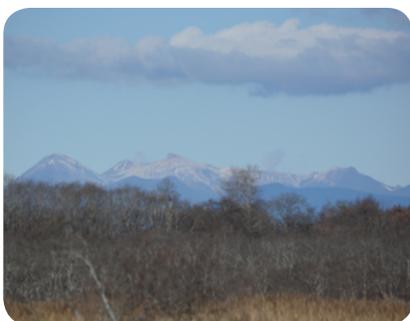
【ツリバナ（葉）】  
ニシキギ科 吊花  
鶴居軌道沿いの紅葉の中で本種は派手さはカエデ類に負けますが、グラデーションが目を引きまます。



【ツボスミレ（実）】  
スミレ科 壺萇  
枯木の樹上に人知れず咲いていたのでしょ。夏の暑のせいか、葉も濃い緑をしていました。



【チャミダレアマタケ】  
タコウキン科 茶乱網茸  
カバノキ科樹木に寄生する菌類。湿原内のハンノキ林でいたるところに見られます。



【雌阿寒岳】  
11月に入り、うっすらと冠雪した雌阿寒岳。木道の35番あたりで北方向を向くと見えてきます。この日は稜線もくっきり見えていました。



【フクラスズメ】 ヤガ科  
VCの窓の隙間にいました。大きな力だったので珍しく思い、図鑑で調べてみると、面白い名前をしていることがわかりました。

○表紙の写真 上・下：イスカ

## ☆☆☆ 温根内木道周辺で見られた野鳥（10/15～11/14）☆☆☆

初冬を迎え、釧路湿原には続々と冬鳥が確認されています。今年は早くからマヒワ、イスカ、ベニヒワといったアトリ科が確認されています。温根内で初確認したイスカは、「ピン、ピン!」「ピリ、ピリ!」という鋭い地鳴きが特徴で、数羽～数十羽の群れを作って行動しています。ビジターセンターでは双眼鏡を無料で貸し出ししています。



【ツグミ】 冬鳥

ヒタキ科 鶇

全国的に飛来する冬鳥で、ここでも普通に見られます。コクワの実を丸呑みしていました。



【カケス】 漂鳥

カラス科 掛巣

9月からよく鳴き声を聞きます。他の鳥の声を真似ることも。北海道のカケスは亜種ミヤマカケス。



【ノスリ】 留鳥

タカ科 鶯

ハンノキの枝からこちらを窺っていたようです。腹巻のような腹部の斑模様がよく見えます。

## ○温根内木道周辺で観察された花と鳥（10/15～11/14）

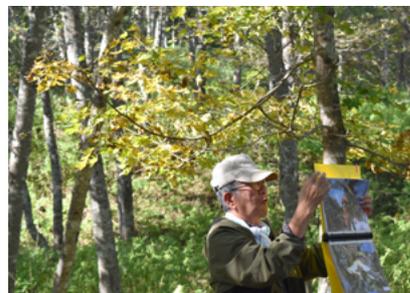
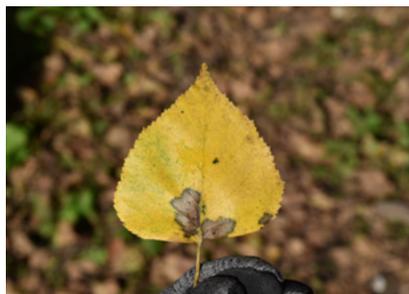
花（和名は五十音順）* 外来種	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
	イヌタデ	オオハクチョウ	マガモ	アオサギ	タンチョウ	トビ	オジロワシ	ハイイロチュウヒ	ノスリ	コゲラ	オオアカゲラ	アカゲラ	クマゲラ	カケス	ハシボソガラス	ハシブトガラス	ハシブトカラ	ヒガラ	シジュウカラ	ヒバリ	ヒヨドリ	ウグイス	エナガ	ゴジュウカラ	キバシリ	ミソサザイ	ムクドリ	ツグミ	セグロセキレイ	タヒバリ	アトリ	カワラヒワ	マヒワ	ベニヒワ	ベニマシコ	イスカ（10/26 温根内初確認）	シメ	アオジ	クロジ	オオジュリン

※温根内木道周辺の植物を折ったり持ち帰ったりしないようお願いします。また、木道から降りて写真を撮ることはおやめください。皆様が気持ちよく散策・観察できるようご理解とご協力をお願いします。

## ☆☆☆☆ 自然ふれあい行事が開催されました ☆☆☆☆

○「秋の紅葉を見に行こう」10月15日 参加者：12名 講師：大山重治（森林インストラクター）

すっきりとした秋晴れの下、紅葉を楽しみつつ、樹木の不思議な生態を観察する散策会を行いました。非常に暑い夏を経た、今年の樹木の紅葉や実の付き具合などを講師の大山氏に概観していただいた後、鶴居軌道沿いに進んでいきました。樹木を見ると、カエデ類の色づきはこれからという感じではありませんでしたが、色づいたシラカバの葉が落ちており、よく似ているダケカンバとの違いについても解説いただきました。また、葉が枯れ落ちたこれからの時期だからこそよく観察できる「冬芽」は、樹種によって違い、種を見分ける際の大きなポイントでもあることを教えていただきました。参加者には実際に近くで観察しながらその特徴の違いを感じてもらいました。湿原側に入ってから振り返り、丘陵地の方向を見ると、黄色く色づき始めたミズナラやイタヤカエデなどの葉が、秋のよい雰囲気を感じ出していました。興味深く講師の話に聞き入っていた参加者からは多くの質問が飛び出し、あっという間に楽しい時間は過ぎていきました。



参加者には実際に近くで観察しながらその特徴の違いを感じてもらいました。湿原側に入ってから振り返り、丘陵地の方向を見ると、黄色く色づき始めたミズナラやイタヤカエデなどの葉が、秋のよい雰囲気を感じ出していました。興味深く講師の話に聞き入っていた参加者からは多くの質問が飛び出し、あっという間に楽しい時間は過ぎていきました。

○「初冬の植物を見に行こう」11月12日 参加者：12名 講師：加藤ゆき恵（釧路市立博物館）

釧路市立博物館の学芸員の加藤氏を講師にお招きし、これからやってくる冬を植物がどうやって越そうとしているかなどを探りながら歩く初冬の観察会を行いました。一面茶色い風景に変わった湿原の中、ハンノキの枝先には松ぼっくりのような実がたわわについており、さらには来年の春に向けて早くも雄花と雌花の花芽が目立っていました。ミズゴケ湿原の地面にはホロムイツツジなどの小さな樹木が、これもまた来春に向けて既に花芽をつけて準備



をしていました。湿原の水中に根を張らずに漂う浮遊植物、タヌキモ。講師がこれをそっと水中から引き上げると、殖芽（越冬芽）を形成し始めており、冬越しの準備を着々と進めていることも解説いただきました。そしてイベントの最後には、冬毛をまとった、まん丸のエゾタヌキが参加者の目の前に現れ、しばらく参加者の癒しの時間となりました。何も無いようでも、目を凝らすといろいろな生きものが懸命に生きようとしている姿が見える、初冬の観察会となりました。

☆☆☆☆ イベントのご案内（12月）事前の申し込みが必要です ☆☆☆☆  
申し込みは開催日の1か月前から受け付けています

○ 自然ふれあい行事 ⇒お申し込み☎0154-65-2323

♪ 湿原の「かたち」を見て歩こう

〔日時〕12月3日（日）10:00～12:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕温根内ビジターセンター

花や葉が枯れ落ち、遠くまで見渡せるこの時期。普段注目しない湿原周辺の「かたち」にスポットを当てて散策します。



○ 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）⇒お申し込み☎015-487-3003

♪ 草木染め体験講座

〔日時〕12月2日（土）13:00～15:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕500円（材料費）

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

♪ 初冬の湿原 野鳥観察会

〔日時〕12月16日（土）10:00～12:00

〔定員〕15名（小学生は保護者同伴）

〔参加費〕無料

〔場所〕塘路湖エコミュージアムセンター

～木道を工事しています～

現在、古くなった木道を改修工事しております。駐車場からビジターセンターの道を工事用車両が頻繁に通過しますので、お越しになる際はご注意ください。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

月刊 温根内通信 No.326

発行：釧路湿原国立公園 温根内ビジターセンター

〒085-1145 北海道阿寒郡鶴居村字温根内

Tel：0154-65-2323 Fax：0154-65-2185

E-mail：ovc@kushiro-shitsugen-np.jp

ホームページ：http://www.kushiro-shitsugen-np.jp/

Facebook：温根内ビジターセンター フェイスブック

開館時間：9:00～16:00（4月～10月は17:00まで）

休館日：毎週火曜日（12/29～1/3は休館）入館無料